

# 第1回栗東市地方創生懇談会議事要約

令和元年12月3日(水) 午前9時30分～  
栗東市危機管理センター3階 大研修室

## 【出席者】

委員：新川委員、清水憲委員、吉川委員、山元委員、平田委員、清水久委員、稲木委員、  
内記委員

事務局：市長、副市長、市民政策部長、総務部長、福祉部長、子ども・健康部長、  
環境経済部長、建設部長、建設部技監、教育部長、議会事務局長、関係次課長  
元気創造政策課事務局担当

## 1. 開会

## 2. 市民憲章唱和

## 3. 挨拶

## 4. 委員の委嘱について

(省略)

## 5. 会長・会長代理の選任について

(省略)

会長：新川委員、会長代理：清水憲委員

## 6. 協議事項

(1) 傍聴に関する取扱いについて

(省略)

傍聴者数：0人

## 7. 審議事項

(1) 令和元年度 地方創生関連事業の進捗状況について

### 《資料説明(事務局)》

(省略)

### 《質疑応答》

### 委員

P8「学校給食栗東産米供給事業」について、栗東市産環境こだわり米の100tの供給

とは、供給総量のうちどれくらいの率になるのか。

#### 農林課長

---

小中学校で 90t、幼保で 15t の合計約 105t を供給しているところであり、年間の総量全てがこだわり米である。

#### 委員

---

P6「生活困窮者自立相談支援事業」において予算額 14,131 千円は、相談員の人件費か。

#### 福祉部長

---

概ね相談員等の人件費である。また、学習支援事業等の社会福祉協議会への事業委託費も含まれている。

#### 委員

---

P6「放課後子ども教室推進事業」について、なぜ葉山学区のみ開催がされていないのか。

#### スポーツ・文化振興課長

---

他の学区と同様に募集を行っているものの、葉山学区のみ募集をしても人が集まらなかったためである。

#### 委員

---

同じ学区の人にこだわって募集をしているのか。

#### スポーツ・文化振興課長

---

原則は学区の中で対応しており、他学区の人が対応することはない。

#### 委員

---

目的は子供の支援であることから学区にこだわる必要はない。葉山の住民にとっては不公平感が出るのではないか。

#### スポーツ・文化振興課長

---

今後、可能であるか検討する。

#### 委員

---

P2「広報大使就任事業」について、栗東市の PR をどのようにしていただいているのか教えていただきたい。

#### 市民政策部次長

---

例えば、日本騎手クラブ関西支部にはサイン色紙を提供いただく中、観光物産等で対応をしながらPRを行っている。10月に開催された滋賀県人権教育研究大会では森田まさのりさん、木村敬一さん、近藤寛子さんにビデオメッセージをいただいている。また、くりちゃんファミリーマラソンでは近藤寛子さんにお越しいただいた。

広報の活動としては、それぞれのツイッターやフェイスブック等で全てではないが活動していただいている。

## 委員

---

そのような活動をしていることを新聞等で広報することで活動内容のPRになり、本市のPRにも繋がることから検討していただきたい。

## 市民政策部次長

---

本市広報誌でも不定期ではあるが、広報大使の自己紹介を載せており、HPでも確認ができるようになっている。今後も広く対応をしていきたい。

## 委員

---

P3「観光資源活用推進事業」に記載されている『観光施設等利用状況における利用者数』とは、栗東市の観光施設全体での利用者数になるのか。

## 商工観光労政課長

---

平成30年中における栗東市の観光入込客数である。

## 委員

---

観光入込客数が89万人いる中、めぐりちゃんバスの利用者が707人しかおらず、バスが有効に機能していないのではないかと。

P3「栗東観光案内所の運営体制強化事業」では、年間利用者が11,645人で売り上げが438,550円であり、客単価が低く通常の会社であれば潰れている。手原駅2階に観光案内所があることをほとんどの人が知らないと思われるので、栗東市に来ていただいた方に目につくように1階に移動するか、2階に誘導するようしていく必要があるのではないかと。効果がないと意味がない。

## 環境経済部長

---

観光振興会議でも同様の意見をいただいております、外でお金を使っただけ地域経済を活性化させていくことが重要であるので、単に観光客が増えたということでアウトプットの評価にするのではなく、そういった点も調査をしながら効果を上げていきたい。

観光入込客数については、市内のスポーツ施設等の利用者も含まれている。

## 委員

---

ママさんバレーやゲートボールの利用者が含まれているのであれば、観光入込客数とは違うのではないかと。

## 環境経済部長

---

観光入込客数調査では、市内・市外の分類は不可能である。そういった調査をしていくために観光で独自で調査をしているので、実際にどれだけ市外・県外からお見えになっているかというのは、これから調査をしていく中で明らかにしていきたい。

## 委員

---

登録率がどれだけであったかを目標数値にしている項目があるが、登録者にどれだけ満足度を与えられるかが重要であり、少人数で100%の満足度があればいいのかは議論があると思うが、全体的に評価していく中でどれだけ登録数があるのかだけにこだわっていて、その成果の部分が見えない。

例えば国・県が創業支援で言っていることは、創業支援後に黒字か、赤字か、納税事業者になったかまで問われる。創業支援ただけで満足するのではなく、どれだけ納税をしているのか、そこまでフォローアップをしないと絵に描いた餅になってしまうと言われている。登録率等だけにこだわっているところが若干みられるので、実的な成果がどれだけ出ているのかまで踏み込んでいくことも参考にしていただきたい。

## 会長

---

栗東市の市民生活や経済活動、地域のまちづくりや教育福祉の構造にどう繋がっていくのかというところを少し鑑みながら検討していただければと思う。残りの期間、当初の目標達成に向け引き締めて取り組みを進めていただきたい。

## (2) 第1期総合戦略にかかる数値目標及び重要業績評価指標(KPI)達成状況について

### 《資料説明(事務局)》

(省略)

### 《質疑応答》

## 委員

---

P3「しごと」の就業者数・事業所立地数についていずれも未達成であるが、一方で、開業事業者数は大きく目標を達成していることから結局のところ廃業が進んでいるのかと思うが、廃業数の推移を把握していれば教えていただきたい。また、第2期総合戦略を作成していく中で、廃業数を想定したうえで目標設定をしていく必要があると思うので廃業予測もあれば教えていただきたい。

## 環境経済部長

---

廃業数は現在手元にはないが、廃業が増えている傾向は事実である。次期戦略ではどのようなKGIを設定していくのがいいのか、あるいはその目標に向けどのようなKPIを設定していくのかは内部で議論を進めたい。

## 委員

---

P3「しごと」で就業者数や事業所立地数が減ってきているのは市外に勤める方が増えてきているからだと思うが、P4「商工業を振興するまちづくりが推進されていると思う市民の割合」「産業創出のまちづくりが進んでいると思う市民の割合」は増えてきており、アンケートの中身から探られているものがあるか教えていただきたい。

## 環境経済部長

---

「商工業を振興するまちづくりが推進されていると思う市民の割合」は、現行の総合計画の中で1回目のアンケートを行い、そこから栗東市が取り組んできた商工業の施策を市民の皆様にお示しした中で2回目のアンケートを行ったところである。特に総合戦略の中でも商工業の様々な施策を創設し、地道ながら施策を充実して取り組んできたことが成果として表れたと解釈している。

「産業創出のまちづくりが進んでいると思う市民の割合」については、新幹線中止後の後継プランを実施してきた中で、企業誘致・立地等を進めてきたことで評価をされていると思われる。

## 会長

---

まち・ひと・しごとの数値目標については残念ながら未達成であり、一つ一つの重要業績評価指標については、達成・未達成がある中、指標そのものが適切であるか改めて議論が必要であるかもしれない。比較的容易な指標あれば、事業の成果が表れにくい指標もあったと思われるが、取り組み遅れのようなものもあり、「栗東ブランドの認証件数」が目にとまる。また、「遊休農地の減少面積」のように難しい指標もあったと思われるが、残りの期間頑張ってください必要がある。

新たな総合戦略に向けて、これまでの戦略に掲げた事業そのものの性質が効果の見合うものであったのか、重要業績評価指標に繋がっているのか、指標が成果を表すものになっていたかどうか、このあたりを含めて精査をしていただくとより良いものに繋がりが、今までの成果に対する客観的評価もできることになると思うのでよろしく願います。

### (3) 第2期栗東市総合戦略の策定について

#### 《資料説明（事務局）》

(省略)

#### 《質疑応答》

## 委員

---

KPIは5年間の最終年度に達する目標であると認識しているが、P11には「計画期間

の5年間にすぐに効果が上がる取り組みばかりではない」とあり、目標値についてこのような結果にしてしまうと整合性が取れなくなると思うが、考え方についてお教えいただきたい。

## 事務局

---

第1期のとりまとめを「計画期間の5年間にすぐに効果が上がる取り組みばかりではない」としているものの、5年間の計画期間の目標として設定しているものであり、内容によってはということに記載している。

## 委員

---

P24の事業所立地数を前回同様に3,000件としているが、日本の経営者の平均年齢が70歳であり数年経過すると一気に廃業が進むと考えられることから、現実的な数字に置き換えをしていくべきではないか。熱心に取り組まれているので、市民に分かりやすい目標設定にすべきではないか。

## 事務局

---

目標値については、現行の戦略で達成できない見込みのものはそのまま踏襲させていただいているところである。

## 委員

---

各委員からの指摘の通り、KPIの数値目標は国・県の目標もあると思うが、達成と未達成が半分あり、達成できる数値を上げるのか、達成できないかもしれないが上げるべき数値を上げるのか、どのように数値を上げているのかお聞かせ願いたい。

## 事務局

---

実現不可能ではないものを上げているつもりではある。

## 委員

---

達成可能な数値を精査して上げていただければと思う。

## 会長

---

努力をしなくても達成可能な数値を上げるのはいかなものかと思うが、一生懸命取り組めば何とかできそうなものを見つけていただければと思う。

## 委員

---

P24・25 総売上高と製造品出荷額はどのように区別をされているものなのか。

「市内での購買割合10%増加」については、大規模商業施設が中止になった中、できると思っているのか。

人口減少が進み事業承継も難しく、廃業が続いていく中、廃業を食い止めるという

たことを書く必要があるのでは。

正式に第2期総合戦略作成した際には、馬のマークをなくすのか。P22「すべての子どもの育ちの支援」では、ホースセラピーについて書きたいがために馬のマークをつけているように感じる。待機児童などのいろいろな課題がある中その中の一つのためにマークをいれているのであれば、全ての事業に馬マークを入れる必要があるのではないか。ホースセラピーは一つの方策であり、とってつけているような違和感がある。

## 事務局

---

馬のマークは最後まで入れる予定である。「すべての子どもの育ちの支援」では、ホースセラピーも該当してくるが、子どもたちへの馬に触れる機会づくりをイメージしてつけているものである。

製造品出荷額については工業統計を利用しており、総売上高は経済センサスを利用しているので商業を含んでいる数値である。

## 委員

---

通販が増えていることも加味すれば、政府統計では役に立たないのでは。売上高のうち市内から市外への売り上げを伸ばすということであると思うが、物流されているものもあることを加味していく必要がある。

「市内での購買割合10%増加」は、もう少し現実的に加味していく必要がある。厳しいけどやっていくということを書いていく必要がある。

馬のまちとして栗東を認識している市民の数を上げるというのであれば分かるが、そのようなアンケートをしてないのではないか。とってつけたようにマークがあるので、馬のまちの推進がダメとは言わないが一度検討いただきたい。

## 委員

---

個別事業が掲載されていないようになったが、総合計画の中で進捗管理をしていくという理解でいいのか。

## 事務局

---

その通りである。

## 委員

---

なかには、乳幼児等福祉医療費助成や他市減免などの個別項目が載っているものもあるが、あえてここだけ記載している理由は何か。

## 事務局

---

全体的には幅広くとれるように記載しているところであるが、あまりにも内容が漠然としているものについては例示しているところである。

## 委員

---

何か意味があると誤解されるのではないか。具体的な事業を精査していただき、必要であるかどうか検討いただくべきではないかと思う。

## 委員

---

P20「妊娠・出産・子育てをつなぐ安心の支援」で、現行戦略の待機児童に関する目標達成状況を見ると年々増えているが、現行と第2期ではどのように変わっているのか教えていただきたい。

## 子ども・健康部長

---

待機児童対策として毎年保育園を設置しているものの、それを上回る希望者がいることから待機児童が増えたりすることもあるが、待機児童対策等の5年計画である子ども子育て支援事業計画を作成しているところであり、年次的にさらに保育園の設置や保育士の確保に取り組み、将来的には待機児童を0にすべく取り組んでいるところである。

## 委員

---

P21「確かな学力と生きる力を育む教育環境の整備」について、あえて国語と算数の平均をKPIにしている理由は。他のことはいいのかと捉えられる。「授業の内容がよくわかる児童」くらいにしておくべきでは。

## 学校教育課長

---

全国学力学習状況調査の数値を活用していることから国語と算数に限定している。

## 委員

---

理解はできるが、教育の進むべき道は国語と算数だけではない。学校教育はそれだけでないことから、検討をお願いする。

## 会長

---

国では6つの戦略を掲げ切れ目なく進めていくということで、本市でもそうした観点で切れ目なくということである。これまでの戦略も踏まえそれをさらに高い目標にしていけるような総合戦略にしていかなければならない。加えて国での動きとして、スマートシティに代表されるAI等を活用した「Society5.0」を踏まえたまちづくり、従来通り人口を増やすだけではなく栗東で色々な活動をしていただける方々や市外にいてもふるさと納税等で協力してくださる方などを増やすといった「関係人口」という視点、そのことと深く関係する分野間の連携・外との連携をさらに深めていくことで地方創生の質を深めていくことが重要である。地方創生推進交付金の関係もあると思うが、このあたりをもう少しクリアに出していくこともご留意をいただきたい。また、本市において達成できたところ、未達成のところ、そもそもの目標の立て方に

ついでご議論いただいたが、KPI をしっかりと見定めて本当に重点をもたなければいけないところ、そのうえでなお数字をおくことがこれからの 5 年間実際に努力をして達成していくことがふさわしいかどうかということを考えていかなければならない。事業についても、地方創生にふさわしい事業を選んでいるかどうかをこれからもさらに議論を進めていただければと思う。

馬マークについては悩ましいが、再度検討していただき、馬マークのものを再掲で乗せるなどの工夫が必要ではないか。

## 7. その他

総合戦略の策定については、本日の意見、そしてパブリックコメントを踏まえて次回の地方創生懇談会で再度審議いただくことになるのでよろしく願います。

## 8. 閉会

以上